

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人パワーアップ支援室

代表者・役職名 氏名 代表理事 本館 淳

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

未災地の防災力の向上を図るみんなのぼうさい道場プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。)

会員数など。180文字程度まで)

2010年8月30日に、企業経営者・会社員・主婦・高齢者など、年代も職業も異なる有志が集い、設立された法人です。2011年3月11日に発災した東日本大震災を機に、岩手県内を中心とした被災地の復興支援、本県および隣県で起きた自然災害における緊急支援、防災減災活動を主軸に活動しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

この事業は、岩手県北上市和賀町横川目地区において、家庭防災、自主防災組織や災害ボランティア、災害後の初期対応などを学ぶ講座、写真パネルや防災グッズの展示、災害ボランティアの簡易体験など、五感を使って防災減災に関する知識を得る「みんなのぼうさい道場」の開催を通じて、未災地における防災等の意識や、日常生活における防災力・減災力の向上を図る事業を行います。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「みんなのぼうさい道場の開催」

(1)メインエリア(山の駅和賀)

①防災減災に関する講座の開催。家庭防災および自然災害の発災後の初期対応などを学ぶ講座。

②写真パネル展示、防災グッズの展示。

③いにしえ防災術(温故知新の防災ビタミン計画)の紹介。

(2)家庭防災エリア(山の駅和賀)

①木材や段ボール箱で製作したものに防災グッズを取り付け、日常の対応を学ぶ常設展示。

②家具の配置、避難経路の確保など、各家庭における防災対策を個別で相談するコーナーを設置。

(3)体験エリア(復興支援ハウスおらえ、山の駅和賀)

①防災グッズの手作り体験。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ぼうさい講座: 期間中15回(うち5回はオンラインでの開催)参加人数 のべ 83人

個別相談コーナー:期間中3件 体験エリア:期間中5回 防災グッズ製作

防災講座への参加者が暮らしている地域の特徴、過去に起きた災害などを紹介しながら講座を行ったことで、参加者が災害をより身近に感じ、さらには防災減災対策の必要性を伝えることができました。また、似たような特徴を持つ地域で暮らす参加者同士のつながりができたことで、将来的な防災ネットワークの基礎作りにもつながりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

昨今のコロナ禍の影響により、感染拡大防止対策の一環として、対面式だけではなく、オンラインでも講座を開催したことで、講座の開催方法や内容を見直す良いきっかけとなりました。今後は、防災減災面から見た特殊災害としての新型コロナウイルス感染症、自然災害発生時における感染拡大対策等も内容に追加しながら、ぼうさい道場での定期的な講座の開催を検討します。また、写真パネルや防災グッズの展示等については、定期的に内容を変更しながら、常設展示を継続。家庭防災エリア、体験エリアについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を考慮し、継続内容の取捨選択を行ってまいります。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり



防災グッズ (紙薪づくり)

新聞紙を水で濡らし、型枠に押し込んで製作する紙薪づくり。新聞紙そのままだとあっという間に燃え尽きてしまうが、手を加えることでゆっくりと燃焼し、薪の代用品となります。

Iwanichi Online
岩手日日新聞社

電子新聞
ログイン
MENU

北上・自然館 備える大切さ学んで 「ぼうさい道場」 開設 山の駅和賀【北上】

2021年3月9日付



みんなのぼうさい道場で展示している東日本大震災や近年発生した自然災害の写真

北上市和賀町横川目の産直施設・山の駅和賀に、家庭防災や災害の初期対応を学ぶスペース「みんなのぼうさい道場」が開設されている。

北上市和賀町横川目の産直施設・山の駅和賀に、家庭防災や災害の初期対応を学ぶスペース「みんなのぼうさい道場」が開設されている。東日本大震災の発生から間もなく10年。自然災害の写真展示、被災地で暮らす住民の手作り商品の販売、防災グッズの紹介などを通じて、改めて備えることの大切さを伝えている。4月下旬まで。

同市を拠点に復興支援、防災活動、生活弱者への福祉支援などに取り組むNPO法人パワーアップ支援室(本館代表理事)が主催。震災10年の節目に「震災を忘れない、伝え続ける、これからも寄り添い続ける」きっかけになることを願い、企画した。身近な自然災害として挙げられる豪雨・台風災害についての知識や対処方法を学び、心の備えを高める内容になっている。

会場では津波で大きく損壊した防潮堤、土台がえぐられ傾いた建物、打ち上げられた漁船など震災直後の写真をはじめ、一帯で崩落した土砂が道路や河道をふさいだ2008年6月の岩手・宮城内陸地震、宮古市、釜石市などで土石流が発生した19年の台風19号災害といった近年発生した自然災害の写真85点を見ることが出来る。

岩手日日への掲載(2021年3月9日付)